

ファッションタウン桐生・2005わがまち風景賞 講評と審査経過

1 . 講 評

物体はいつ風景になるのだろうか

審査委員長 伊達 美徳

新しい橋や道や建物ができてから、それが風景となるには、どれくらい時間がかかるのだろうかと考えてしまう。今回の応募の中で私が気になった新物は、「青葉台斜面地の個人住宅」、「MINAMO(賃貸テラスハウス)」、「桐生市文化会館」である。これらはいずれも先鋭的な建築デザインであり、実に気になる場所に気になる形態を持っていて、審査会で話題になりつつも、選に入らなかったのである。それはどうしてだろうか。

結論から言えば、たしかに気になる「景観」ではあるが、まだ情を含む「風景」にはなっていないからだ。それは食べ物にたとえると、第1に、時間という調味料あるいは発酵がまだ足りないので、グルメにはいたっていないのだろう。第2には、料理そのものは見事だが食器や盛り付けがいまひとつ、つまり周りと調和が足りないのである。これらはいつになったら風景になるのだろうか、その日が来るのを期待を込めてこれからも見守っていききたい。

実は私の都市計画家という職業柄から、もうひとつ気になる比較的新しい風景の応募があった。「本町5丁目商店街近代化ビル群」である。見慣れてしまった市民には変哲もない商業ビルだが、1960年代だろうか、先人たちの努力のこもる協働まちづくりの結晶群として見ると、大切なわがまち風景となってくるのだ。

新しい風景といえば、新しい錦桜橋ができたが、前のような桐生の町の門としての風景はなくなり、ただの道になってしまった。欄干のデザインがちょっと哀しい。

しばらくぶりに「桐生新町の西裏路地」という、界隈風景が選に入った。これこそは桐生わがまち風景の真髄である。いま、全国各地で路地の街が見直されている。東京の向島や神楽坂、大阪や京都でも、路地のある街を、道路を広げ高層ビルに変えるのではなく、暮らしの場であり仕事の場として生きてきた親しみある空間の心地良さを生かして、安全な街として育てようとする動きが活発になって、全国路地サミットなる全国大会も催されている。桐生にはまだほかに数多くの路地があるので、これからが楽しみである。

「金谷レース工場」は、鋸屋根の毎回入選しかも現役工場であるところが、さすがに桐生ならではの思わずにいられない。「南川潤旧居」が選に入ったのは、その由緒もさることながら、背景の丘陵と前面の川とのあわせ技の、まさに風景となっているゆえであると見たい。「日本キリスト教団桐生教会」と「樹徳高等学校木造校舎」とは向い合わせの位置にあり、これらを街並みとしてとらえると興味深い風景となる。端正な洋風教会の横には和風建築の牧師館があり、懐かしい洋風木造学校建築の背後には現代RC校舎があり、そばには商家長屋建築もあり、互いに呼応しながら歴史の重層する街並みをつくり出しているのだ。

まだまだ桐生わがまち風景の奥は、深い深いものがある。その一方では、直したい景観も深刻なようだ。良い風景を育てるには、電柱、電線、看板、幟旗を取り払ったり、建物の色を塗り替えることなど、すぐにでもできることもある。

(都市計画家)

歴史的な背景と雰囲気

審査委員 山口 一郎

今年も桐生市のいろいろな宝を拝見し、大変興味深い経験をした。40数件の推薦物件からわずか5件を選ぶのは容易ではなかった。今回の当選物件はいずれも桐生市の歴史に大きな役割を果たしていることが特記できよう。

金谷レースは風格を漂わせるレンガの建物と鋸屋根が吾妻山の緑にくっきりと映えて素晴らしい。南川潤邸は前の道路から見上げても、また縁側に腰を下ろし、桜の木立を透かして桐生川を見下ろしても、心安まる佇まいである。今年で没後50年の坂口安吾を桐生に呼び寄せた作家の住まいとしても興味深い。桐生教会と樹徳高校木造校舎は道を挟んで向かい合っている。ともに木の床が磨き上げられ、簡素な作りの中にも高い精神性に通ずる雰囲気が漂う。樹徳高校校舎は高層コンクリートの新校舎の谷間にありながら、いやむしろあるからこそ、その存在感が際立っている。桐生教会はその横の純和風建築の牧師館とヒマラヤ杉と一体となって、独特の調和を感じさせる。桐生新町の西裏路地は足を踏み入れてみると、黒々とした瓦屋根をいただいた伝統的な家屋や傾いた塀と明るい色の新築家屋が隣合い、色鮮やかな草花や庭木の美しい庭先を遠慮しつつ抜けるなど、子供の頃の冒険心が甦る思いであった。

今回の受賞風景はいずれも歴史的な背景と独特な雰囲気を兼ね備えており、桐生の豊かさや奥深さをよく表していると思う。選に洩れた候補の中にも素晴らしいものがまだかかず残っているのはまことに喜ばしいことである。

(群馬大学工学部教授)

次の領域をとらえ始めた風景賞

審査委員 川口 貴志

○審査を終えて

今回の受賞作も独特の世界観を放ち、どれも素晴らしいものでありました。昨年の私の一押しであった「南川潤住宅」は今回多く支持され、前面に広がる桐生川と作家を偲ぶ凜とした佇まいは結実しております。また「金谷レース工業様」、「桐生新町西裏路地」には桐生の懐の深さと底力を改めて見せつけられました。

「樹徳高等学校木造校舎」は、新しい校舎群の中心に堂々と座しており、正に新旧校舎各々が、時代を超えて心温まる学園の情景を形成しておりました。

○今回の傾向

「日本基督教団桐生教会」をはじめ、惜しくも受賞には至りませんでしたが、悠々しく勇ましさ溢れる「國武館」、献身的な精神性の高い「聖フランシスコ修道院」、そして「桐丘幼稚園」には愛くるしさと伝統を感じました。

やはり“学舎や教場”はとても精神性が高く、神聖な何かを感じます。今回、市民の方々がこれらが支持、応募されたことは、風景賞自体が次の領域を捉え始めたという予感を強く抱きました。

○節目の5回目を迎えて

散策する中で往事を思い起こさせる建物が各所にありましたが、中には朽廃が進んでいて将来的にその維持自体が困難と思われる、失いたくない貴重なものが見られました。

未来への継承のためにも、“市民主体で維持再生出来る何かのプラン”が待たれていると思います。それにより多くの市民の方々が、伊達先生ご指南の“風情と情景”を再発見し更に大きなうねりに展開してゆくものと確信しております。

私にとりまして、とても学びの深い時間でした。誠に有難うございました。

(株式会社アンカー代表取締役)

ドラマを感じさせる風景

審査委員 丸尾 康弘

今回で3度目の審査をさせて頂きました。毎回、大変興味深く、今度は何を発見できるんだろうとワクワクさせられます。今回は天気も最高で気持ち良く桐生の街を歩きました。古い建物立ち姿は見事で、素材の調和、その美しさは驚きです。以前の桐生の街はどんなに素晴らしい風景だったのだろうと想像するのです。そこにどんな人々が生き、どのようなドラマがあったのだろうかなどと。

今回も感じたのですが、新しい建物のある風景でなかなか興味を持てるものに出会わないのは、そこにドラマや地場の力、瞑想や妄想を含めて、そのようなものを感じないからだろうか。素材は昔より多種多様といえばそうだし、すぐれたコンセプトとデザイン性があれば古い建物に勝るとも劣らないものができるはずでしょう。でもそれを感じないのは、時間の量が足りないだろうか。人々の積み重ねられた営みが足りないからだろうか。その答えはまだわかりません。今回、風景賞に選ばれた場所は私にたくさんのドラマを感じさせてくれました。

(彫刻家)

守り、育み、活用している姿

審査委員 久保田恵美子

澄み切った青い空の下「2005わがまち風景賞」の現地視察に参加し、歴史的背景を持つファッションのまち桐生が、個性的で意外性があり、当時の思いや、今に至るまでの生活文化の様子を感じ取ることが出来た。また、伝統的な家を大切にしながら、守り、育み、普及し活用している姿に共感を覚え、そして、これこそ地域の誇れる貴重な財産でもある。

桐生には、創造性豊かなもの、歴史の息吹が残るもの、風化した芸術的自然等々いろいろな案件が存在し、これらは観光資源であるように思える。しかし、現状においては、これらの建造物は経年による老朽化が進み後世に残していくには、復元技術、耐震対策等々、大変厳しい課題を抱えていると思われる。だが、当地域は、今後、北関東自動車道の開通により他県との交流が促進され、大きな活性化が期待される。この様な中で、これからの時代を担う若者達の息吹も取り入れ、産・学・官と連携し、地域一体となり前進の課題に真剣にかつ持続的に取り組んでいくことが必要であると考えます。

(桐生短期大学教授)

なんと素敵な街・桐生

審査委員 斉藤 利江

春うららかな澄み切った空の下、バスに揺られて桐生の街をぐるりとまわり、予想以上に感動した自分に驚かされた。それと同時に、今までなんと自分の住んでいる街を知らなかったのかと、恥ずかしくもなった。

木造校舎に入ると、とたんにタイムスリップして懐かしさが込み上げたり、教会の厳かな雰囲気の中では、神の荘厳な祈りと温かさを感じ、身が引き締まった。心地よくバスに揺られながら、見る景色も山あり川ありで、なかなかの風情があった。新旧色々な住宅を見学しながら時には時代を感じたり、当時の住人の心境に心馳せたり、織機の音を聞きながら、家人と語り、織都桐生の歴史も知ることが出来た。

道ばたに咲く花を楽しみながら、歩いた路地の細道は、人情味溢れ、なんととも情緒があり遠い記憶が甦り、心の故郷を感じられた。

一日を時間の足りないくらいに、ワクワクしながら、楽しむことが出来るなんて、なんと素敵な街だろうと、まさに桐生再発見！の一日だった。

(写真家)

「風景賞」を機に継承に期待

審査委員 松井 裕

「わがまち風景賞」も今年で5回目ということですが、初めて審査員として参加させていただきまして、まず、桐生のまちづくりを多くの人達が一生懸命考えてくださっていることに大変うれしく思い感謝をいたします。

さて、私事ですが、以前に蔵や織物関係の建物、煙突のある建物そして古いまち並みなどの風景写真を撮ったことがあり、多少の関心はありましたが、なかなか屋敷内や家の中に入っての撮影はしづらかったため、貴重な機会をいただいたことを大変うれしく思いました。

さて、現地調査が進んでいき、本町二丁目から西裏路地の踏査中に地区の住民から「何をしているのか」と尋ねられ、「わがまち風景賞」について説明したところ、「飛騨高山などに比べて、そんな価値は無いと思うよ。」という言葉が返ってきた。おもわず私は、「現時点で比較すればそうかもしれないが、飛騨高山などが脚光を浴びようになるまでには建造物群を保存しようという地域の人々の努力によって今日に至っていると思いますよ。桐生のこの街並みも皆さんの努力で保存されることになれば50年先、100年先には飛騨高山のように脚光を浴びることになるのではないのでしょうか。」と話したところ、その方は「そんなものかなあ、そうなればいいんだけどなあ」と言っていました。

こんなやり取りで思ったことは、もし、「わがまち風景賞」が一因となり、これらの保存に繋がっていった場合、課題として所有者などの理解と利活用をしながらの管理、そして地域への馴染みが深まることなど、維持管理の難しさなどを痛感いたしました。

(桐生市都市計画部都市計画)

東京生まれの桐生好き

審査委員 島崎憲司郎

僕は東京生まれですが、大の桐生好き人間なんです。あるいは、余所から来た者だからこそ桐生の佳さを一層強く感じるのかも知れません。キリュウという地名からして実にイイ。町全体が適度にコンパクトで、ほとんどの用は自転車で足りてしまう点も大いに結構。ひなびた蔵、ノコギリ屋根、長い時を経た慎ましやかな家並み、それらの間の無数の路地…。僕は何か子供の頃から路地が大好きでしてね。馬齢を重ねるにつれ、益々好きになりました。散歩の時なども必ず路地から路地へと巡ります。こんな偏向した路地趣味は余りに私的で、パブリックな意見としては如何なものかと考え、選考会議の際には「西裏路地」をあえて選定外に「自主規制(?)」したのですが、選考結果の中にちゃんと入りました。伊達審査委員長はじめ委員各氏の御見識流石なりと胸を撫で降ろした次第です。その滋味深い路地群をこのたび改めて見学しつつ、ふと頭の隅に大の路地好きだった文人永井荷風の姿が浮かんだりしたことを申し添えて置きます。熱烈な坂口安吾ファンの本山の桐生で、安吾が手厳しく酷評した荷風を妄りに口にするのは厳に御法度かも知れませんが、荷風散人がもし今回の審査委員に加わっていたとしたら、まず間違いなく「西裏路地」に熱い一票を投じたことでしょう。

(毛鉤作家)

次世代に伝えられるからこそ「風景」

審査委員 山田 耕司

▼ひとが磨き、伝えてきた空間、特に子供たちとかかわりの深い場に魅かれた。國武館は選にもれたが、柱の傷も含め見事な風景であった▼金谷レース工場は映画の撮影でもたびたびお世話になっている。崔洋一監督をして感動せしめた貫禄のノコギリ屋根。現役の工場であるところも受賞の一因▼桐生教会の力強さ。そしてその洗練。磨き伝え慈しんできた人々の歴史を借景に多くの票を集めた。個人的にはトイレに感動▼「誰」と受賞者を特定できぬまま桐生新町西裏路地が受賞。その事態そのものが桐生らしい。「点」ではなく「面」の面目躍如▼吹くからこそ「風」。次世代に伝えられるからこそ「風景」

(わたらせフィルムコミッション代表)

魅力溢れる場所や建物

審査委員 利根川 泉

桐生へやってきて5年ですか。早いものです。僕はこちらへ来てから桐生という街を自分なりに観察してきたつもりでした。が、こうして歩いてみるとなかなかどうして素敵な場所や建物が沢山あるじゃないですか。新しいもの、古いものや場所。どれも魅力がキラキラ溢れています。それに街中をオッサンたちがゾロゾロ歩き回っている様は一見、変！でも表情はまるで子供のよう。宝物でも見つけるような瞳と笑顔が僕をうれしくさせる。それに対してしっとりとした落ち着いた風情で桐生川を見下ろす「南川 潤」宅や、普段の身の不浄を正してくれるような「聖 フランシスコ修道院」、歴史を感じさせ当時の活気を思い起こさせてくれる数々の近代化遺産を目の当たりにし、どの候補に表を入れてよいものやらかなり混乱しました。まだまだ桐生の奥深さに対して自分の修行が足りないな…。と思わせてくれた一日でした。

(写真家・デジャブ店主)

過去を受け継ぎ新しさ創りだす風景

審査委員 安池 優樹

プロジェクトメンバーの方が言われた「文化会館をこれからの桐生というものを考えて推したい」という意見が印象に残っています。

私もついついこの町に癒しだとかやすらぎなどを求めてしまい、現に自分の選んだ風景もそのような気持ちに基づいてのものでした。もちろんそれが悪いということではないと思います。桐生の歴史的に貴重な建築物とその風景はもちろん後世に残していくべきだと思います。しかし、これから新しい桐生というものを考えた際、それだけでは何かもの足りないような気がしてしまうのです。過去を受け継ぎ、かつ新しいものを造り出していく、これからはそんな風景が求められていると思います。

いずれにせよ今回のことで、私は桐生にさらなる興味を感じ、少々おこがましいですが、この魅力の詰まったこの町をみんなに知ってもらいたいと思うようになりました。残念なことに、私の周りの友達はまだ桐生という町を知らないと思います。彼らにも知ってもらうことで、私たち学生にしかできない活動ができるかもしれません。

これからも、この町に目を向けた生活をしていこうと思っています。

(群馬大学工学部学生)

風景の中に感じられる人達

審査委員 大森 彩子

今回の審査会に参加させて頂いて、とても貴重な体験ができました。これほど意識して街を歩いたことがなかったので、たくさんの発見があって驚きました。学校という空間がコンクリートの冷たさではなく、木のあたたかさで包まれた樹徳高校の木造校舎。窓からのまぶしすぎないやわらかな光とステンドグラスの鮮やかさが印象的で、外見がシンプルなのでどんな風景にも溶け込めそうな日本キリスト教団桐生教会。南川潤住宅では、狭さを感じさせないのんびりとした感じと、一枚の絵のような空間がとても素敵でした。桐生新町の西裏路地には見落としそうな所に数々の発見がありました。

その建物、場所の雰囲気は、その空間を作った人間、または使用している人間によって違うものなのだと思います。その人達をわずかでも感じられた気がしました。

(桐生短期大学学生)

桐生の町をもっと知りたい

審査委員 上村真那美

貴重な体験をさせていただきありがとうございました。この体験を通して桐生の町のすばらしい風景や建物を知ることができました。審査委員に選ばれたときは本当にうれしかったです。しかし、そんな気持ちの中にも少し不安を持っていました。

第二回審査委員会では、現地調査ということで、いろんな風景や建物を見てまわりました。この調査で行った場所は、私にとっては初めてのところばかりで、行った場所一つ一つに驚きと感動がありました。特に、南川潤氏の住宅に興味を持ちました。私の町では、あまり見ることができないタイプで、とてもきれいな和風住宅だと思いました。まわりには自然もあり、建物と風景が一つになったかのような不思議な感じがしました。建物だけがめだっているのではなく、自然とともに、ここにあるという建物の強い力を感じました。そして、私はこの住宅が選ばれたとき心からうれしくなりました。私はこの日をきっかけに、もっと桐生の町を知りたいと思うようになりました。

(桐生工業高校建築科)

桐生にとって らしい風景とは

審査委員 金井紀江子

他のまちにも らしい風景がある様に、桐生らしい風景は何か、やはり織物の町にノコギリ屋根などが代表でしょうか。残念なことにこれらを存続していくことは非常に厳しい面があることも知りました。これらは決して避けて通れない問題かも知れませんが、見る側と維持する側との温度差は格段の差があるような気がします。

見る側の思いとしては残してほしいです。

普段何気なく通り過ぎている通りにも風景があることに気がつき癒される自分がいる事。路地裏にあってはその場に立つだけで、子供たちが走り、笑う、泣く、人情、そんな情景があったであろう、これも全てが風景なのかもしれない、という事に感動し、懐かしさを覚えました。

今後も新しさと古いものとが融合しながら新しい風景が作られていくことを願います。

(FT生活文化委員会委員)

2 . 審査経過

2005 わがまち風景賞プロジェクトチーム

2005 わがまち風景賞は平成16年10月末から翌17年2月20日まで案件の募集を行った。今回は平成16年秋の桐生ファッションウィークに桐生市有鄰館味噌醤油蔵で「わがまち風景賞パネル展」を開催し、この会場でも推薦用紙を配布した。

昨年に引き続き桐生市内の3か所（有鄰館、ゆい、織物参考館）に応募ポストを設置し、推薦者の利便を図った。その結果、寄せられた推薦用紙は59通だった。このうち重複する案件を一つにまとめ、プロジェクトチームからの推薦案件も含めて、整理された審査対象案件は58案件となった。

第1回目の審査委員会は4月8日（金）午後2時から桐生商工会議所会館4階408号室で開かれた。委嘱された24人の審査委員のうち委員14人が出席し、互選により伊達美徳氏が昨年に引き続き審査委員長に選任された。案件のリストとともにパワーポイントによる画像での説明がプロジェクトチームにより示された。選考にあたっては、登録文化財を含めた国、県、市等の指定文化財は1件のみの選出とすることが確認された。

画像提示後の協議で、各委員からのベスト10を出してもらうことにし、高得点をあげた19案件を第2次審査である現地視察の対象案件とした。

第2回目の審査会は4月23日（土）朝から現地視察と審査会というスケジュールで行われた。審査委員17人、プロジェクトメンバー10人、事務局2人、総勢29人という大勢の参加となった。第1回目上位得票案件を中心に19か所をマイクロバスで巡り、対象案件が集積するようなエリアは徒歩で、桐生の街歩きツアーのような様相で現地視察は展開した。聖域である聖フランシスコ修道院や日本キリスト教団桐生教会に大勢で押しかけ、礼拝室にまで案内

してもらい恐縮したが、その精神性の高い美しさに一同感銘を深くしていた。好天にも恵まれ、桐生の多彩な風景に触れた審査会は、その後、桐生商工会議所に戻ってからの協議でも余韻が残り、熱心な意見交換が行われた。

審査は長時間にわたり、委員それぞれの主張があってなかなか合意に至らなかった。特に文化財指定物件は1件のみ選出という枠があり、選考は難航、「金谷レース工業」と「水



道山記念館」が激しく競ったが、吾妻山を背景にした借景に優れ、民間で建物・風景を守っている点で前者が選定された。しかし、「水道山記念館」のシンボル性や坂道と一体となった風景、他の水道施設（近代化遺産）とのネットワークによる存在感は高く評価された。

文化財以外の4件については、委員からベスト4を出してもらい協議した。投票結果をもとに議論が交わされたが、なかなか絞りきれず再投票となるほど審査は難航した。

結果的に5件が「2005わがまち風景賞」として選出されたが、これらと変わらない評価をされた案件も多くあったことを強調しておきたい。

特に、子供たちの心を育てる精神性が風景にまで昇華しているような「國武館」。鋸屋根の建物を積極的に教育の場として活用している「桐生短期大学附属幼稚園」、集合住宅の新しいスタイルと住む人たちのライフスタイルを提案する「MINAMO」、ひっそりと佇み街の喧騒から隔離された趣のある「吾妻公園」などは高く評価されていた。

3 . 改善したい風景・思い出の風景

風景賞の大きな特徴であるわがまち桐生の「改善したい風景」には、今回、少数ではあるが、以下のような意見が寄せられた。

- 錦町近辺のシャッター街。さみしい風景です。人の気配を感じたい。もっと住んで欲しい！
- 末広町サンロードにある某予備校の看板。
- 本町5丁目交差点のピンクの大カンバン。使っていないのだから外してほしい。

一方、わがまち桐生の「思い出の風景」は次の通り。

- 梅田の市内循環バスが回る一番奥の周辺。
- 相生の松（今は木が折れてしまったので、残念です。形が変わってしまいました）
- 通称水道山「ロック」と呼称されていた「岩場の山」。現小倉クラッチの施設。一部開放願えれば、市街地が身近に一望でき、観光名所に。
- コロンバス通りを東に行ったところを開ける「バラ園」もとても見事です。
- 八幡宮の社殿（新宿2丁目）
- 水道山ロックの三日月形の大岩。何処に行ってしまったんでしょう。
- 西宮神社、小学校の頃によく学校帰りに遊んでいた。

以上であるが、かつての桐生の特徴的な風景、個人的な思い出のある風景が挙げられている。

4 . 2 0 0 5 わがまち風景賞の選出作業を終って

エネルギー溢れる新しい風景が欲しい

わがまち風景賞 プロジェクト リーダー

佐々木 正純

今回で5回になる「わがまち風景賞」で、合計27点もの風景が選出された。1回目から、常に思っていたことはエネルギーに溢れる「新しい風景」を選出したいと考えていたことである。が、桐生にはすばらしい昔の建築物が多く、新しい建築物等を含む風景が選出されなかった。

確かに、桐生には近代化を支えてきたすばらしい建築物が多く残っている。が、もう一度よく眺めたいと考えている。この「わがまち風景賞」は桐生の文化・財産を選出しているという意識が大切であるが、また、この風景の中で毎日の生活を送っているという現実も忘れてはならないと思う。朽ちていく風景でなく、われわれの生活を支え育んでいくエネルギーに満ちた風景を選出したいと考えている。

新しい建築物を含む風景の創造に多くの人達が取り組んで欲しい。また、歴史ある建築物に現在必要な機能を付加し、生き生きと再生された建築物にも敬意を払いたい。

ファッションタウン桐生・わがまち風景賞

- 2 0 0 1 有鄰館・アッシュ・泉新・宮本町和洋折衷住宅群・山手通り・本町1、2丁目
- 2 0 0 2 今源織物・金善ビル・桐生織塾・群大同窓記念会館・芭蕉・錦桜橋
- 2 0 0 3 矢野本店店舗・桐生天満宮古民具骨董市・菱の氷庫・後藤の鋸屋根工場・須藤邸
- 2 0 0 4 大川美術館・田村家住宅・桐生森芳工場・彦部家住宅・無鄰館
- 2 0 0 5 金谷レース工業・南川潤住宅・日本キリスト教会桐生教会・樹徳高等学校木造校舎・桐生新町西裏路地

ファッションタウン桐生・わがまち風景賞

ファッションタウン桐生・わがまち風景賞

ファッションタウン桐生・わがまち風景賞